

第11回 The 11th International Society of Comprehensive Medicine 国際全人医療学会

同日開催

第29回 日本実存療法学会／第36回 日本疼痛心身医学会
第4回 低血糖・血糖値スパイク研究会／国際実存療法士 資格認定講習会

テーマ

東西医学における全人的医療
— 過去、現在、そしてこれから —

会期

2024年10月6日(日)

会場

日本教育会館 第5会議室

大会長

伊藤 剛

北里大学客員教授 北里大学北里研究所病院漢方鍼灸治療センター

主催：(公財)国際全人医療研究所

International Society of Comprehensive Medicine

国際全人医療学会 設立趣旨

今日の医療にはさまざまな問題点があります。その結果、医療不信が蔓延しています。再生医療だの臓器移植だのと先端医療が華々しく展開される反面、「私の頭痛はなぜ治らない？」という患者が増加しているのも事実です。

現代医学の問題点とは、機能的疾患の診断・治療学の貧困、器質的疾患の治療における副作用、致命的病態の治療学の貧困などです。

私たちの考える全人医療とは、いつ、いかなる場合も、患者を病める人、「いま、ここで」生きている生活者としてとらえ、その QOL（クオリティ・オブ・ライフ；生活の質）を高めることを目的とした医療です。その実践のためには、現代医学をベースにしながらも伝統的東洋医学、心身医学、実存分析、物理療法などの方法論を相補的に導入します。全人医療は、人類の叡知を集結し、患者個々の QOL の向上に役立てる医療です。また、患者を観る視点は身体・心理・社会・実存モデルに従い相互主体的医師－患者関係を構築し、チーム医療を実践することを目指します。

第 1 回国際全人医療学会は、1993 年のビクトール・フランク博士来日を機に東京で結成されました。池見西次郎教授、Stacey B Day 教授、Spyros Marketos 教授、Mermed RN 教授、Immielinski K 教授らが賛同されました。その後しばらく休会しておりましたが、2014 年に再開され、今日に至っています。

全人医療は、国際的な普遍性をもつ医療です。各国の先駆的な団体、大学と提携し、全人医療の研究、教育、診療に力を注ぎます。同時に、その成果を社会に還元し、市民個々の積極的な全人的健康創りに寄与できるよう取り組んで参ります。

今後とも皆様の一層の御支援をお願い申し上げます。



公益財団法人国際全人医療研究所
創設者 前代表理事
永田 勝太郎

本ページには、国際全人医療学会発足当時※の永田から皆様へのメッセージを再掲しております。

※1993年5月29日 前身である日本実存心身療法研究会設立

御 挨拶

伊藤 剛

第 11 回 国際全人医療学会 大会長

北里大学客員教授

北里大学北里研究所病院漢方鍼灸治療センター

約 40 年前、「全人的医療」という概念が、日本の心身医学を創設された池見西次郎先生によって提示されて以来、我が国でも全人的医療の重要性が認識されはじめ、医学教育カリキュラムにおいても全人医療の必要性が明記されるようになりました。しかし現在においても、全人医療を実践する医療人を育てるための有効な具体策があるとは言えないのが実情です。『バリント療法』（池見西次郎監修、永田勝太郎編集）の書籍の序で、池見先生は「西洋流の全人的医療に東洋伝来の全人的な人間観と東洋医学を加味することによって、東西の出会いによる真の全人的医療への展開が起こる」と述べられています。このように西洋医学的な全人的医療のみならず、東洋医学（漢方医学）の中には、全人的医療を行うための知識と経験が沢山集積されています。そこで今回の第 11 回国際全人医療学会のテーマは、「東西医学における全人的医療～過去、現在、そしてこれから～」とさせていただきます。「未来」とせず、「そしてこれから」としたのは、地球温暖化による環境変化、人口増加や気候変動による食糧危機、少子高齢化、覇権や民族問題に起因する戦争など、多くの問題を抱えた現在からは明るい未来が見えてきません。この事は医療においても同じで、現代の西洋医学に比較して、漢方医学においてはより深刻であり、未だに残る漢方や鍼灸に対する偏見、生薬資源の枯渇と輸出規制、生薬の薬価高騰、漢方薬の保険外し政策、中医学による世界伝統医学統一の脅威など様々な問題を抱えている日本の漢方医学において、未来は決して明るいとは言えないからです。ホモサピエンスである人類が、他の動物ともっとも異なる特徴は「共感できる」能力とされています。一昨年亡くなられた永田勝太郎先生のご意志を継ぐにはまだまだ私自身、力不足ではありますが、今大会では、人を理解し「共感」に基づく医療、つまり全人的医療をこれからどう築いて行くべきか、現代医学の中に漢方医学の経験知をどのように取り入れていったら良いか、そして日本の全人的医療を推進させる上で本学会が果たす役割とは何かを考える機会にできればと考えています。

プログラム

■ **基調講演** 10:00-11:00 座長：加藤 眞三（慶應義塾大学名誉教授、エムオーエー高輪クリニック院長）

東洋医学と全人的医療

伊藤 剛（北里大学客員教授・北里大学北里研究所病院漢方鍼灸治療センター）

■ **特別講演 I** 11:00-12:00 座長：伊藤 剛（北里大学客員教授・北里大学北里研究所病院漢方鍼灸治療センター）

全人的医療教育と漢方医学教育

ーモデル・コア・カリキュラムの共通フォーマットとしての可能性

並木 隆雄（国際医療福祉大学成田病院予防医学センター・病院教授）

座長：杉岡良彦（京都府立医科大学大学院医学研究科医学生命倫理学 准教授

■ **特別講演 II** 13:00-14:00 医学部医学科 人文・社会科学教室 准教授（医学哲学）

意味を求める人間へのケア

加藤 眞三（慶應義塾大学名誉教授、エムオーエー高輪クリニック院長）

座長：伊藤 剛（北里大学客員教授・北里大学北里研究所病院漢方鍼灸治療センター）

■ **シンポジウム** 14:10-16:45 喜山克彦（喜山整形ハーブクリニック 院長）

テーマ：東西医学における全人的医療の理想と現実、そして未来

□シンポジスト講演 1

“治ること”と“救われること”ー全人的医療によりどこを目指すのか？ー

早崎 知幸

（曹洞宗道虎山 静元寺住職、慶友会吉田病院 漢方外来 非常勤医師、日本保健医療大学 客員准教授）

□シンポジスト講演 2

日常の臨床から全人的医療を考える ー鍼灸師・心理士の立場からー

岡田 紘未

（銀座泰明クリニック（臨床心理士・公認心理師）、善福寺東方医院（鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・公認心理師））

□シンポジスト講演 3

慢性疼痛治療における全人的医療の役割

前川 衛（（公財）国際全人医療研究所 千代田国際クリニック 院長）

□シンポジスト講演 4

Faith Community Nursing（信仰共同体看護）の可能性

野口 恵子（救世軍清瀬病院 チャプレン）

■ **総合討論（シンポジスト・座長・会場を交えて）**

基 調 講 演

東洋医学と全人的医療

伊藤 剛

北里大学客員教授

北里大学北里研究所病院漢方鍼灸治療センター

全人医療あるいは全人的医療を遂行するに際し、もっとも必要とされる大事な要素は、特殊な診療技術などではなく、情動を共有する、つまり共感できる能力だと思います。患者さんの置かれた苦しみを共有し、状況を理解し、「なんとかしてあげたい」という感情がおこるのは、1990年代にリゾラッティらにより発見された、他者の行為を鏡の如く、あたかも自分が行っている行為のように脳に投影するミラーニューロンによるものなのです。しかも共感する能力は、ヒトが動物の中でもっとも優れているのです。

一方、神経科学より1997年にスプリンガーらは、左大脳半球は時間的・言語的・分析的処理を、右大脳半球は空間的・非言語的・視覚的・統合的な処理を特徴とする事を報告しています。さらにオースタインは「東洋と西洋の意識形態や精神的能力の差は、二つの大脳半球の差という生理学的基礎を持つ」と述べているように、西洋医学は言語化できる情報を処理する左脳の医学、東洋医学は視覚や非言語的情報を処理する右脳の医学とも言えるのです。精神や情動などの非言語情報を処理するためには、右脳的な東洋医学が必要となる理由もそこにあるように思えます。

また1994年、ダマシオは「心は脳だけでは生まれず、脳は身体に操られる」事を脳科学的に明らかにし、デカルトの心身二元論を否定しました。これにより東洋医学の心と体を全体として診る「心身一如^{しんしんいちによ}」の真理が西洋医学的にも裏付けられたと言えるでしょう。

本講演では、日本における古から現代に繋がる全人的医療の流れと、東洋医学（漢方医学）が全人的医療を行う上で必要とされてきた理由と本質について、神経科学と東洋医学よりアプローチする予定です。

キーワード：東洋医学、全人的医療、右脳左脳、心身一如、共感

プロフィール

伊藤 剛 (いとう ごう)

< 現職 >

北里大学客員教授

学校法人北里研究所 北里大学北里研究所病院漢方鍼灸治療センター

< 略歴 >

1982年 浜松医科大学医学部卒業、内科研修

1983年 静岡労災（現、浜松労災）病院消化器内科

1991年 浜松医科大学第一内科助手、健康管理センター学校医兼務

1996年 北里研究所東洋医学総合研究所（漢方・鍼灸）

2008年 北里大学東洋医学総合研究所鍼灸診療部部長

漢方鍼灸治療センター副センター長

2011年 同 漢方診療部部長、所長補佐、臨床准教授

2018年 同 漢方鍼灸治療センター（漢方外来・鍼灸外来）、北里大学客員教授

2023年 現職

その他

浜松医科大学医学部医学科非常勤講師（1997-2022）医学部看護学科兼任教員（1995-1996）

静岡県立大学看護学部非常勤講師（1997-2013）、山梨県立大学看護学部非常勤講師（2003-2008）

北里大学医学部非常勤講師（2001-2007）医学部兼任教員（2008-2024）薬学部兼任教員（2011-2024）

北里大学大学院医療系研究科兼任教員（2008-2010）、明治薬科大学薬学部非常勤講師（2011-2017）

< 所属学会 >

日本内科学会内科認定医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本神経消化器病学会会員

日本東洋医学会漢方専門医（評議員・指導医）、和漢医薬学会・全日本鍼灸学会会員

日本自律神経学会（評議員→功労会員）、国際自律神経学会会員

国際全人医療学会・日本疼痛心身医学会（理事）、日本ストレス学会会員

< 受賞歴 >

1989年 平成元年度 内視鏡医学研究振興財団研究助成受賞

2001年 第25回 イスクラ漢方研究助成受賞

2009年 平成20年度 上原記念生命科学財団研究助成受賞

< 著書 >

1. 胃十二指腸潰瘍『心身症の診断と治療』（共著）永田勝太郎編、診断と治療社、2007年

2. 『東西医学の専門医がやさしく教える即効100ツボ』伊藤剛著、高橋書店、2012年

3. 『副交感神経を活かして不調を治す』伊藤剛著、PHP研究所、2013年

4. 『いちばんわかる！東洋医学のきほん帳』伊藤剛著、学研、2014年

5. 『(最新版)カラダを考える東洋医学』伊藤剛著、朝日新聞出版、2018年

6. 漢方の診察法『漢方医学大全』（共著）日本東洋医学会編、清風社、2022年、他

< 社会活動 >

テレビ出演 95回（2001年-2023年）、ラジオ出演 10回（1995年-2023年）

特別講演 I

全人的医療教育と漢方医学教育

ーモデル・コア・カリキュラムの共通フォーマットとしての可能性

並木 隆雄

国際医療福祉大学成田病院予防医学センター・病院教授

演者は、漢方医学を介して本学会の創始者のおひとり永田勝太郎先生と個人的に知り合うことができた。というのは、永田先生は、漢方薬に造詣が深く、診療に使用されていた。その理由は定かではないが、漢方医学がその当時、黎明期の「全人的医療」の一部の具体的な解決方法に、漢方医学の考え方が応用できると考えていらしたと推察している。例えば、漢方医学には不定愁訴はなく、患者の訴えはすべて漢方診断（証）に役立つと考えている（多愁訴とは言う）。このことは全人的医療において、ナラティブを大事にする考えにも通じると考えている。

漢方医学は各モデル・コア・カリキュラムに2001年の医学から始まって、薬学・歯学・看護学にすでに記載されている。もちろん、漢方医学の考えだけでは、心身医学を基礎に置いた全人的医療はカバーしきれないかもしれないが、両医学は共通な考えが存在する。

医学に進歩により膨大な量の医学知識を学ぶ必要のある医系学生に、臨床医学の実践で欠くことのできない全人的医療を効率的に教育するという立場から、漢方医学教育の共通フォーマットとしての有用性を考えてみたい。

キーワード：全人的医療教育、漢方医学教育、モデル・コア・カリキュラム

プロフィール

並木 隆雄（なみき たかお）

< 現職 >

国際医療福祉大学成田病院予防医学センター・病院教授

< 略歴 >

1985年 千葉大学医学部卒業

1993年 医学博士取得

1996年 米国 Emory 大学留学

1998年 帝京大学附属市原病院心臓血管センター助手

1999年 帝京大学附属市原病院心臓血管センター講師

2002年 千葉県立東金病院内科部長

2005年 千葉大学大学院医学研究院先端和漢診療学客員助教授

2010年 千葉大学大学院医学研究院和漢診療学准教授

2012年 千葉大学医学部附属病院和漢診療科診療教授

2023年 千葉大学真菌医学研究センター 特任教授

2023年 国際医療福祉大学成田病院予防医学センター 病院教授

< 専門分野 >

日本東洋医学会認定漢方専門医・指導医・理事

日本循環器学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

不整脈学会専門医

和漢医薬学会・理事

特別講演Ⅱ

意味を求める人間へのケア

加藤 眞三

慶應義塾大学名誉教授

エムオーエー高輪クリニック院長

ビクトール・E・フランクフルは、魂へのケア（Seelsorge）が医療者に求められている時代が来ていることに早くから気づき、Arztliche Seelsorge（医師による魂のケア；「死と愛」「人間とは何か 実存的療法」）を著作し、晩年まで改訂を続けられた。強制収容所での生活を通してフランクフルが学んだのは、生きる意味を見つけられた人間が最期まで人間らしく生きられたことであり、そのためには三つの価値（創造価値、体験価値、態度価値）がヒントになることを見いだした。そして、現在の状況を引き起こした原因を突きとめ、それを解決しようとするのではなく、現在の状況においてどう生きられるのか、生きる意味を問われていると思考を転換することを奨められている。

人間はなぜ意味を求めるのか、生きる意味を問うてくる人生とは何をさすのかについて、本講演では問い直してみたい。

キーワード：生きる意味、価値の確認、いのち、人生

プロフィール

加藤 眞三（かとう しんぞう）

< 現職 >

慶應義塾大学名誉教授

エムオーエー高輪クリニック院長

上智大学グリーンケア研究所客員所員

< 略歴 >

1980年 慶應義塾大学医学部卒業

1985年 同大学院医学研究科博士課程単位取得退学

1985-1988年 米国ニューヨーク市立大学マウントサイナイ医学部内科 Research fellow

1988-1990年 慶應大学医学部消化器内科助手

1990-1994年 都立広尾病院内科医長、内視鏡科科長

1994-2005年 慶應義塾大学 専任講師 消化器内科

2005-2021年 慶應義塾大学看護医療学部教授

2021年より現職

< 主な著書・論文 >

「患者の生き方；よりよい医療と人生の「患者学」のすすめ」、春秋社、2004年

「患者の力；患者学で見つけた医療の新しい姿」、春秋社、2014年

「現代医学から患者中心の医療、全人的医療への移行」、上智大学グリーンケア研究所、
紀要「グリーンケア」、第9号 2020年

シンポジスト講演 1

“治ること”と“救われること” —全人的医療によりどこを目指すのか?—

早崎 知幸

曹洞宗 道虎山 じょうげんじ 静元寺 住職
慶友会 吉田病院 漢方外来 非常勤医師
日本保健医療大学 客員准教授

仏教は、「苦しみの原因と解決」を探求し、「一切皆苦」としてすべては苦であると捉える。とくに生老病死を「四苦」として人間の避けられない苦しみと考える。その一方、「四諦したい（4つの真理）」として、苦しみはあるが、それには原因があり、消すことができ、その方法があると説く。医療は四苦のうち、主に病苦に関わるが、病といっても風邪のような軽く一時的なものから、癌のように重く、死苦につながるようなものまで幅広い。病が重い程、病を通じて気づきを得て、実存的転換につながる可能性が出てくる。このことは、「一切皆苦」「諸行無常」などの真理に触れることによって、「涅槃ねはんじゃくじょう 寂 静」すなわち苦から離れ、安心の世界へ行けるとされることにも通じる。仏教を含めた宗教的素養を基にした慈悲や共感の精神は、一体性を生んで患者、医療者双方にプラスとなり、治療と救済の両方に寄与すると考える。また、人生の物語に寄り添う上で、漢方は強力なツールになり得る。

キーワード：仏教、四苦、四諦、救い、漢方

プロフィール

早崎知幸(はやさき ともゆき)

< 現職 >

曹洞宗 道虎山 ^{じょうげんじ} 静元寺 住職
慶友会 吉田病院 漢方外来 非常勤医師
日本保健医療大学 客員准教授

< 略歴 >

1992年 佐賀医科大学（元佐賀大学）卒業
1992年 同大学総合診療部
1998年 北里研究所（現北里大学）東洋医学総合研究所 特別研修医師
2008年 北里大学 東洋医学総合研究所 漢方診療部 副部長
2012年 医療法人慶友会 吉田病院 漢方科 非常勤医師
2012年 北里大学を退職後、静元寺を継承するために佐賀に帰郷
2013年 日本保健医療大学 客員准教授
2014年 静元寺住職

< 専門分野 >

漢方診療、総合診療、仏教

< 監修 >

「癒食同源」角川書店

< 共著 >

「薬学生のための漢方医薬学」南江堂
「漢方診療二頁の秘訣」金原出版
「漢方使いこなし術」小学館
「漢方処方ハンドブック」医学書院 など

< 受賞 >

第28回和漢医薬学会奨励賞

シンポジスト講演 2

日常の臨床から全人的医療を考える

—鍼灸師・心理士の立場から—

岡田 紘未

銀座泰明クリニック(臨床心理士・公認心理師)

善福寺東方医院(鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・公認心理師)

鍼灸専門学校の学生の時、ダンスの仕事をしていた私は、ストレスがパフォーマンスに大きな影響を与えることを感じていた。もっと心と体について学んで何か鍼灸でできることはないのだろうか……。資格取得後、心身医学を学ぶため、大学病院の心療内科での研修や講座に参加し、その後も学びの場を探していた。

ある時、永田勝太郎先生のクリニックで見学生の募集があると知り、幸運にも受け入れて頂くことができた。永田先生との出会いで「全人的医療」そしてフランクル先生の考えに触れることができたのだ。

東洋医学である鍼灸では身体に触れながら、西洋医学の中で行っている心理療法では主に言葉を使いながら臨床が行われる。その臨床は単なる技術ではなく、例えば生きる意味を失いそうになったらそれを一緒に探し、感じることができるよう時間や場所になることを私は望んでいる。

人は、自分を支えているもの-「生きがい」-があることにより、前に進む力が生まれてくるのではないかと思っている。鍼灸臨床、心理臨床の中ではどのように全人的医療をとらえ、実践していくのが良いのか皆様と一緒に考えていきたいと思う。

キーワード：全人的医療、東洋医学、心理臨床、日常臨床

プロフィール

岡田 紘未（おかだ ひろみ）

<現職・所属>

銀座泰明クリニック（臨床心理士・公認心理師）

Bright Counseling Room（臨床心理士・公認心理師・精神保健福祉士）

はたがや南口心療内科（臨床心理士・公認心理師）

善福寺東方医院（鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・公認心理師）

<略歴>

1995年 日本大学芸術学部演劇学科演出コース卒業

1999年 日本大学大学院芸術学研究科舞台芸術学博士前期課程修了

2008年 日本鍼灸理療専門学校本科卒業

2010年 明治国際医療大学大学院鍼灸学研究科博士前期課程修了

2010年 北里大学東洋医学総合研究所漢方鍼灸治療センター鍼灸師研修生

2016年 日本福祉教育専門学校精神保健福祉士養成課程修了

2021年 放送大学大学院文化科学研究科臨床心理プログラム修了

<専門分野>

心身医学、認知行動療法

<資格>

鍼灸師

あん摩マッサージ指圧師

臨床心理士

公認心理師

精神保健福祉士

<学会>

全日本鍼灸学会

日本認知療法・認知行動療法学会

日本認知・行動療法学会

日本心理臨床学会

日本音声言語医学会

シンポジスト講演 3

慢性疼痛治療における全人的医療の役割

前川 衛

(公財)国際全人医療研究所附属 千代田国際クリニック 院長

慢性疼痛は一般的医学水準では理解できない、もしくは理解できても治療が難しい痛みである。そもそも痛みとは患者にとっての主観的な感覚、個人的体験であるため、傍から見れば同じような症状でも、患者が自らの痛みを語る際の表現（物語）は千差万別と言える。千代田国際クリニックの前院長、故永田勝太郎医師は「痛みはその人の生きざまを映す」と独特の表現をした。視点を変えれば、慢性疼痛の治療には医療者側の「生きざま」も大きく影響するという事であろう。永田先生が生前、著書や診療の中で患者・医療者へ伝えた言葉を紐解き、当院の具体的な症例も示しながら、これからの「全人的医療」について、その可能性や現状の課題などを考察する。

キーワード：全人的医療、永田勝太郎、実存療法、慢性疼痛

プロフィール

前川 衛(まえかわ まもる)

<現職>

(公財)国際全人医療研究所附属 千代田国際クリニック 院長

<略歴>

2001年 日本大学医学部附属板橋病院 麻酔科(研修医)

2003年 東邦大学医療センター大橋病院 麻酔科

2021年 千代田国際クリニック勤務

2024年 同院 院長就任

<専門分野>

日本専門医機構認定麻酔科専門医

日本麻酔科学会認定医

国際実存療法士

公認心理師

シンポジスト講演 4

Faith Community Nursing(信仰共同体看護)の可能性

野口 恵子

救世軍清瀬病院 チャプレン

Faith Community Nursing(以降 FCN)という活動について、文献調査と実践報告を通して、ご紹介させていただきます。

FCN とは、各地域にある教会に属す信仰を持つ看護師が行う、スピリチュアルケアを中心にしたプライマリヘルスケア活動です¹。米国では、看護協会(ANA)出版の FCN の教科書²があり、系統だった看護専門領域の一つです。ケア対象者は、教会員と地域住民で、キリスト教だけでなく、ユダヤ教は congregation nursing、イスラム教は crescent nursing という名称で、FCN を行っています。今日では、31 ヶ国で行われており、数千人の FCNs (Faith Community Nurses) が活躍しています³。日本でも、お坊さんが、訪問看護ステーションと提携する「仏看連携⁴」という、類似した働きがあります。そうした信仰共同体と医療とが結び付くことで、地域住民の全人的な健康をどのようにお支えできるのかについて、皆で考えていけたらと願っています。

キーワード： Faith Community Nursing (信仰共同体看護)、コミュニティチャプレン
地域の全人的健康、プライマリヘルスケア

¹ Antonia M (2012). Van Loon: Faith Community (Parish) Nursing. Oxford textbook of Spirituality of Healthcare, 219-226, OXFORD.

Westberg institution: Faith Community Nursing.
<https://westberginstitute.org/> (2022年8月30日)

² American Nurses Association and Health Ministries Association, Inc.(2017). Scope of Faith Community Nursing Practice. Faith Community Nursing: Scope and Standards of Practice, 3rd Edition, 1-43, Nursesbooks. Org.

³ Adams Liam(2021), Faith community nurses 'carry the hope' during COVID-19pandemic, [Baptist News Global](https://baptistnews.com/article/faith-community-nurses-carry-the-hope-during-covid-19-pandemic/)(<https://baptistnews.com/article/faith-community-nurses-carry-the-hope-during-covid-19-pandemic/>)(2023年4月13日閲覧)

⁴ 大河内大博(2021). “仏看連携”で街づくり～「さっとさんが」の試み～, ナースマネージャー(23)5, 77-82.

プロフィール

野口 恵子（のぐち けいこ）

<現職>

救世軍清瀬病院 チャプレン

上智大学 グリーフケア人材養成講座 演習補助員

<略歴>

1976 年 生まれ

1998 年 横浜市立大学看護短期大学部卒業

1998 年 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院に看護師として入職し、2015 年まで勤務

2016 年 日本赤十字看護大学に編入し保健師を取得

2018 年 上智大学大学院 実践宗教学研究科 博士前期課程に入学

2018 年 NPO 法人 訪問看護ステーションコスモスで 2 年看護師として従事

2020 年 上智大学大学院 実践宗教学研究科 博士前期課程を卒業

2020 年 上智大学大学院 実践宗教学研究科 博士後期課程に入学し在籍中

2020 年 救世軍清瀬病院 チャプレンとして入職

<主な論文>

1) 「がん経験者のセルフアドボカシー—闘病記からの探求」、スピリチュアルケア研究、2022 年、pp.85-100.

2) 「がん支援のための対話の場での非当事者の経験の一考察—スピリチュアリティの観点から—」、現代死生学（1）、2023 年、pp.18-39.

3) 「地域の全人的ケアとしての Faith Community Nursing(信仰共同体看護)—米国文献レビューから日本での実践の可能性を探る—」、文化看護学会誌、2023 年、pp.11-21.